

2011/6/10

柏の景気情報（平成23年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年5月分）

○ 調査期間 : 平成23年5月23日 ~ 5月26日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	125	73.1%
建設	47	34	72.3%
製造	36	25	69.4%
卸・小売	49	41	83.7%
サービス	39	25	64.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年5月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは低調ながらも回復傾向 ▶

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.6(前月水準▲44.0)となり、マイナス幅が△6.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.7(同▲59.4)、製造業▲28.0(同▲37.0)、建設業▲32.3(同▲38.8)、サービス業▲36.0(同▲37.0)である。

【建設業】からは、「経済状況の先行きが不透明なため、工事の着工が減り、受注単価も下がっている」、「東日本大震災の影響で住宅設備の納品が遅れ、当面工事の着工にも遅れが出ている」、「小規模企業ゆえになんとか採算維持に努めておりますが、ある意味で限界にきており、これからの先行き、仕入単価の上昇が考えられ、厳しさは一層増すと考えられる」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「売上は順調に伸びてきたが、震災後仕入単価が上昇し、工場の修理費が重み。経営は苦しくなってきた」、「材料費が一部下がった。東日本大震災の影響による復興の仕事はまだまだ先になると思う。震災の為、計画されていた仕事が延期になったものが多い」、「部品調達の難度は地震直後に比べ好転してきているが、部品単価が軒並み上がってきたのに対し、受注品の価格を上げるわけにもいかず、結果として厳しい状況である」などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「婦人服・洋品の春物は震災の影響で在庫多く値下がり。例年よりも早くバーゲンに突入しそう」、「原発事故の影響から野菜については福島県産だけでなく、千葉や埼玉茨城県産なども敬遠されるお客様が増えつつある。市場に出回っている物は安全とわかっていても無理して近くの産地の野菜を選ばなくとも、といわれる」、「消費者の購買意欲は少しずつ回復してきているが生活必需品しか売れていない」、「前月に引き続き期待される野菜の入荷が伸びず価格も相対的に安価取引の厳しい状況となっています。福島原発事故による出荷制限と放射性物質からの影響が消費者の不安材料と思われる」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「外国人利用客は依然回復の兆しはなく、GWにおいても観光目的での宿泊利用は昨年と比べ激減している。一方で遠出を控える傾向の為にレストラン利用はランチを中心に復調へ向かった。近隣の法人企業からの問い合わせも増えつつあるものの、電力事情が不透明なため受注の足かせとなっている」、「震災の翌日から予約キャンセルの電話が相次ぎ、既に仕入れた品物の支払い、収入は格段の減少のため、資金繰りにあくせくしている」、「原発事故の電力不足で、節電による経済の落ち込み等心配の種であり、今年の夏の気温如何では売上の鈍化が懸念材料となる」、「工場の被災により医薬品の不足、医療器具の不足が続いています」などの声が寄せられた。

◎資材・原材料高騰

各業種から、「少なからず震災の影響によつての受注増が見られ、資材仕入れの工夫によつては、業績アップの見通し。しかし、中期の展望としては、資材の仕入れ単価の値上げが予測されることから、販売価格への影響による、内部的業績の予想は付けにくいと思う(建築工事業)」、「東日本大震災の影響で原材料価格の高騰と入手困難が続いています(その他の機械・同部品製造業)」、「震災後の売上低迷を今月も引きずったまま夏季に向かいそうです。原材料のメーカーなどの生産工場が被災地にあり震災の被害を受け生産がストップ。その影響で材料不足や価格高騰を招いています(菓子・パン小売業)」、「パン屋だけの話では有りませんが、問屋より小麦粉の値上げの話がありました。大手のパンも遅くとも7月ごろからは値上げがあると思います。値上げしなくても上げざるを得ない状況です。材料はなかなか値下げがありません(菓子・パン小売業)」、「油関係の食材、材料の原価の値上がりが多くなっている(その他の飲食料点小売業)」などのコメントが寄せられた。

◎受注減少

各業種から、「先月と変わらず地震の影響によるのか新築がほとんどない。そのかわり余震の落ち着きからか、補修の問合せがとても多いが、受注となる確率は低く、単価も低い。よって営業が忙しいのに売上はままならない状況はもう少し続きそうです(石工れんがタイルブロック工事業)」、「先行きの見通しとして、受注激減、材料高騰、加えて顧客からの工賃値下げ要請があり、悪化が考えられる(電子部品・デバイス製造業)」、「震災の影響を強く受けており、受注が大幅に減少している。取引先が被災者であるなどし、三次的な影響も出ている。これに伴い売上・利益の減少と資金繰りの悪化が懸念される(電子応用装置製造業)」、「サービス業は震災以降最悪な状態です。顧客先の年度内予算を復旧工事にまわされ、予定受注を延期されている(ソフトウェア業)」などの声が上ってきた。

◎先行き不透明

各業種から、「先行きの見通しは、東日本大震災の影響が見づらく不透明。原油高の影響が続き、原材料が高止まりしている(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)」、「景況感変わらず不透明、大震災の影響で部品の供給が若干増えました(電子部品・デバイス製造業)」、「景気の先行き不透明感から未だに飲食は停滞気味です。その分、スーパーはまあまあの数字ではないでしょうか。ただし、仕入れ数量が未だに安定していないので、チラシ(価格)に頼っているスーパーは思うような数字が上がっていないと聞いています。また、風評被害も重なって、青果物、鮮魚、牛乳などの消費に影響が出ています。夏に向けて、計画停電がないよう各企業の節電対応をしなければならず、消費にかげりが見えてきそうなのが心配です(各種食料品小売業)」などの声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲39.7	▲28.5	▲14.2	▲53.8	▲50.0
1月	▲28.7	▲12.5	▲30.7	▲38.4	▲27.2
2月	▲36.7	▲20.0	▲28.5	▲50.0	▲38.4
3月	▲49.2	▲42.8	▲33.3	▲58.6	▲50.0
4月	▲44.0	▲38.8	▲37.0	▲59.4	▲37.0
5月	▲37.6	▲32.3	▲28.0	▲48.7	▲36.0
見通し	▲28.0	▲26.4	▲32.0	▲36.5	▲12.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年5月の業況についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.6(前月水準▲44.0)となり、マイナス幅が△6.4ポイント縮小した。

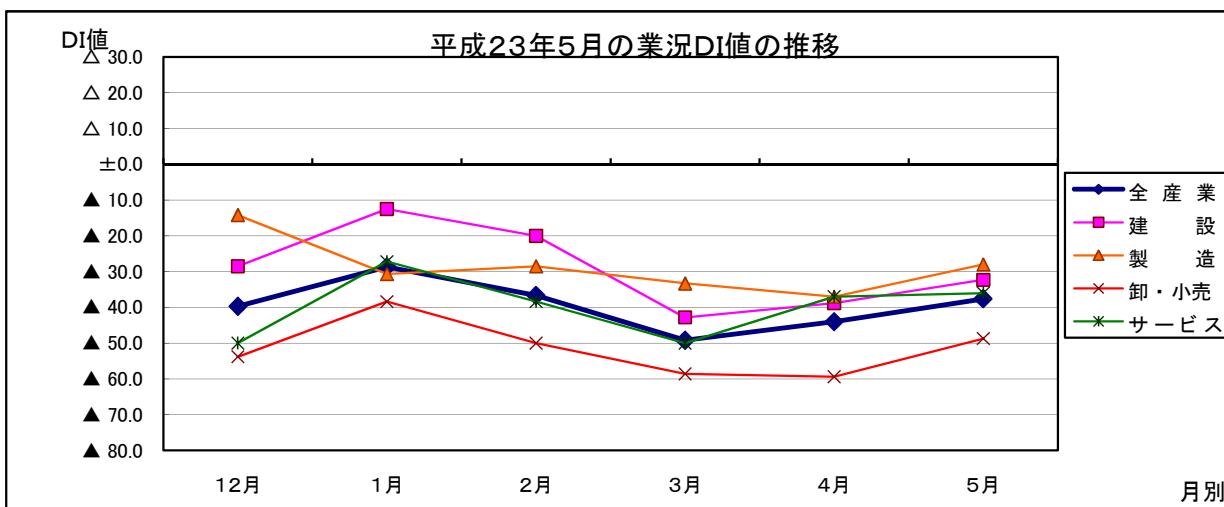
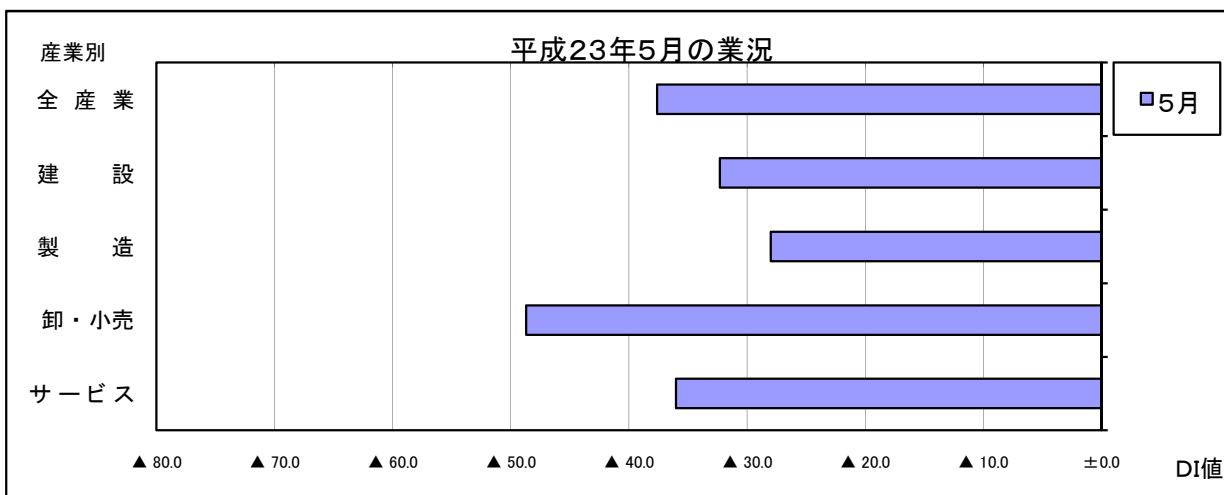
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.7(同▲59.4)、製造業▲28.0(同▲37.0)、建設業▲32.3(同▲38.8)、サービス業▲36.0(同▲37.0)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.0(前月水準▲45.6)となり、プラスマイナス幅が△17.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲12.0(同▲44.4)、建設業▲26.4(同▲44.4)、卸小売業▲36.5(同▲51.3)、製造業▲32.0(同▲40.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が△32.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成23年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲39.7	▲28.7	▲36.7	▲49.2	▲44.0	▲37.6	▲28.0(▲45.6)
建設	▲28.5	▲12.5	▲20.0	▲42.8	▲38.8	▲32.3	▲26.4(▲44.4)
製造	▲14.2	▲30.7	▲28.5	▲33.3	▲37.0	▲28.0	▲32.0(▲40.7)
卸・小売	▲53.8	▲38.4	▲50.0	▲58.6	▲59.4	▲48.7	▲36.5(▲51.3)
サービス	▲50.0	▲27.2	▲38.4	▲50.0	▲37.0	▲36.0	▲12.0(▲44.4)



【平成23年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.0(前月水準▲33.8)となり、マイナス幅が△5.8ポイント縮小した。

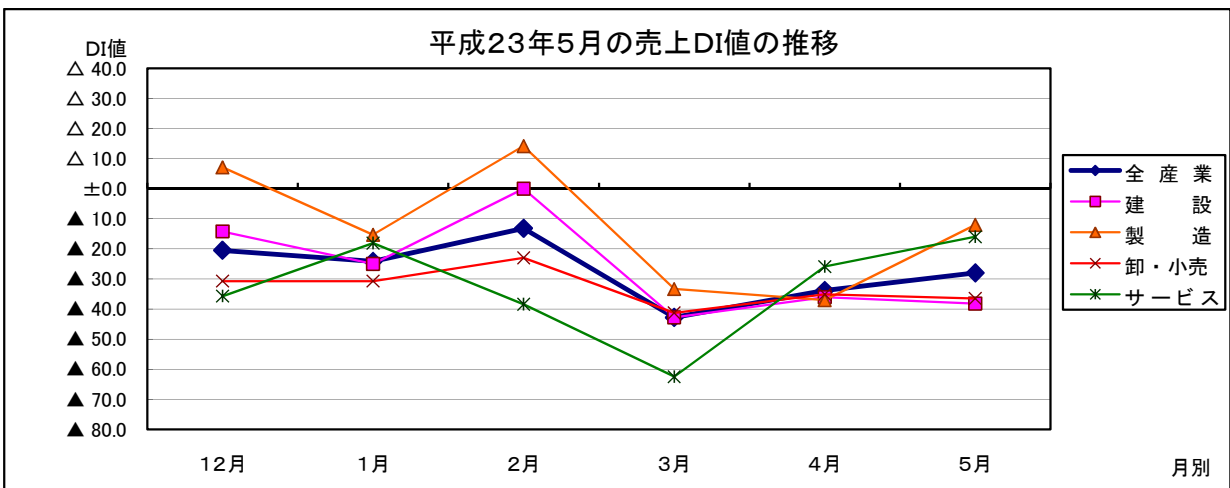
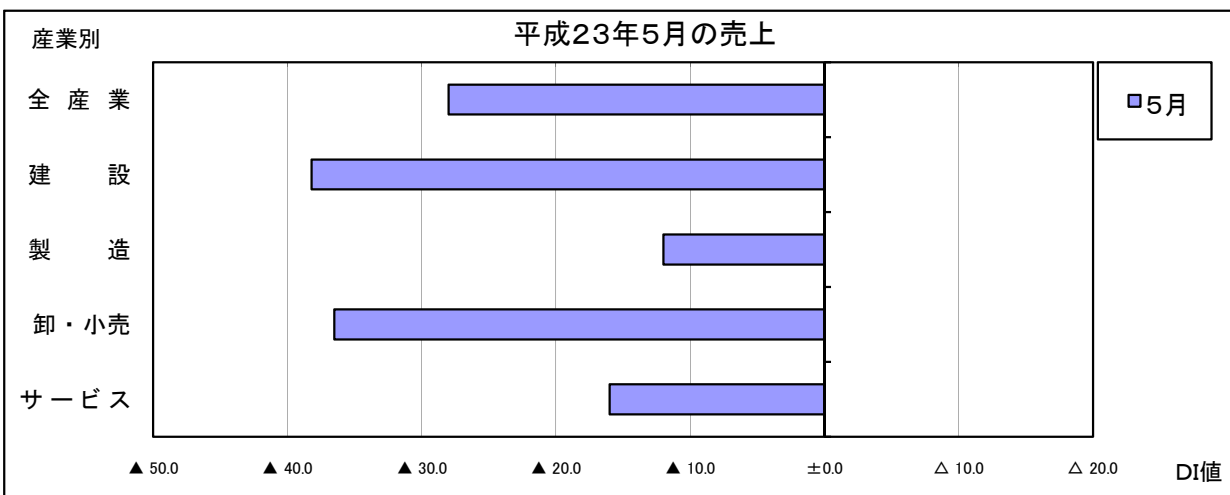
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.0(同▲37.0)、サービス業▲16.0(同▲25.9)である。特に、製造業はマイナス幅が△25.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲38.2(同▲36.1)、卸小売業▲36.5(同▲35.1)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.2(前月水準▲29.1)となり、マイナス幅が△13.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△8.0(同▲7.4)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.0(同▲37.8)、建設業▲23.5(同▲38.8)、製造業▲24.0(同▲25.9)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△20.8ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成23年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲20.5	▲24.2	▲13.2	▲42.8	▲33.8	▲28.0	▲15.2(▲29.1)
建設	▲14.2	▲25.0	±0.0	▲42.8	▲36.1	▲38.2	▲23.5(▲38.8)
製造	△7.1	▲15.3	△14.2	▲33.3	▲37.0	▲12.0	▲24.0(▲25.9)
卸・小売	▲30.7	▲30.7	▲23.0	▲41.3	▲35.1	▲36.5	▲17.0(▲37.8)
サービス	▲35.7	▲18.1	▲38.4	▲62.5	▲25.9	▲16.0	△8.0(▲7.4)



【平成23年5月の採算についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.4(前月水準▲47.2)となり、マイナス幅が△4.8ポイント縮小した。

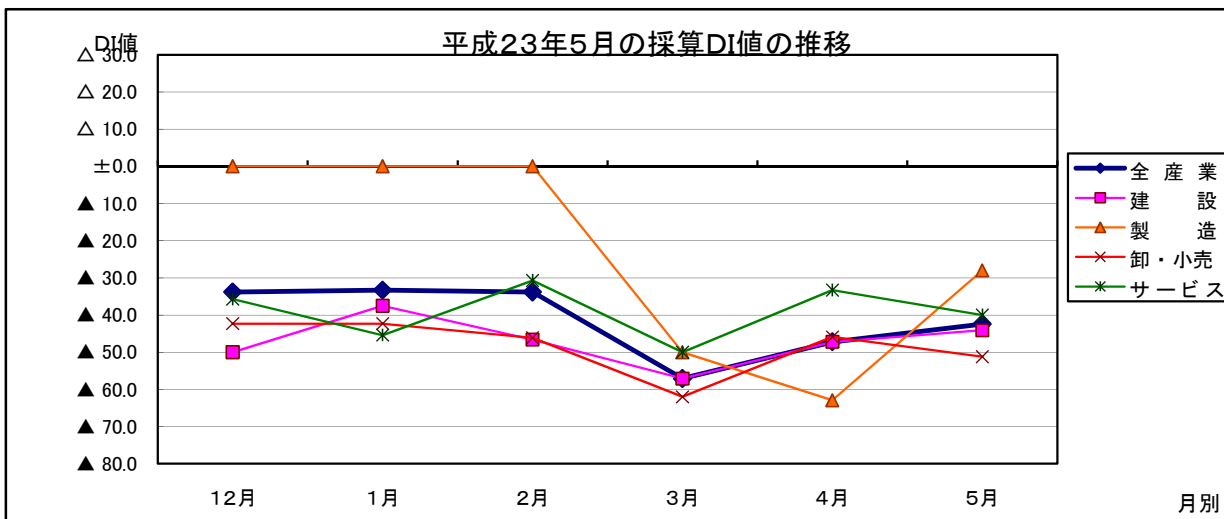
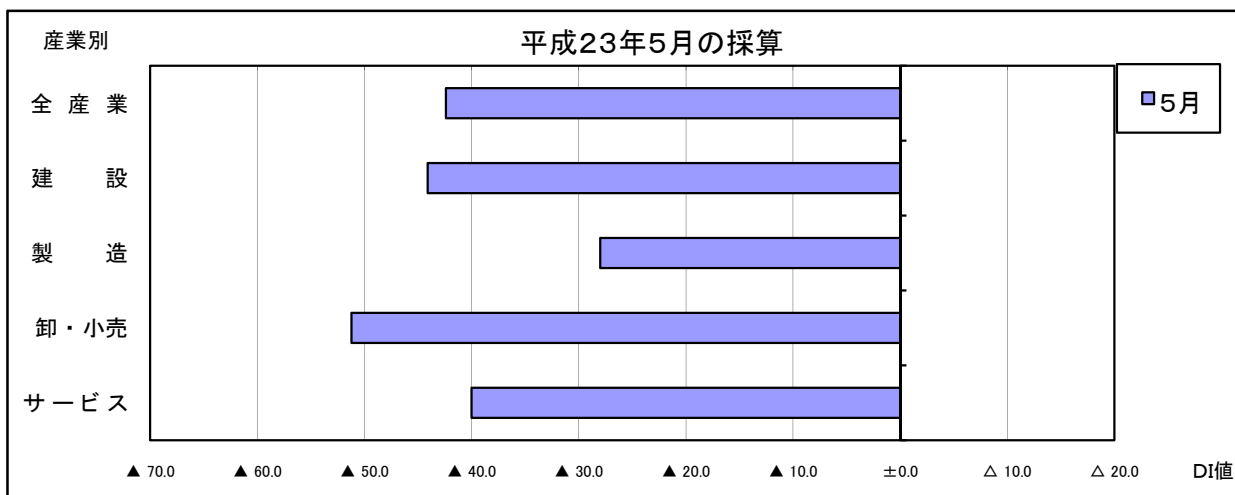
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲28.0(同▲62.9)、建設業▲44.1(同▲47.2)である。特に、製造業はマイナス幅が△34.9ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲33.3)、卸小売業▲51.2(同▲45.9)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.6(前月水準▲42.5)となり、プラスマイナス幅が△12.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.3(同▲48.6)、製造業▲32.0(同▲48.1)、建設業▲38.2(同▲44.4)、サービス業▲24.0(同▲25.9)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△24.3ポイントと大幅に縮小する見通しである

平成23年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	12月	1月	平成23年 2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲33.8	▲33.3	▲33.8	▲57.1	▲47.2	▲42.4	▲29.6(▲42.5)
建設	▲50.0	▲37.5	▲46.6	▲57.1	▲47.2	▲44.1	▲38.2(▲44.4)
製造	±0.0	±0.0	±0.0	▲50.0	▲62.9	▲28.0	▲32.0(▲48.1)
卸・小売	▲42.3	▲42.3	▲46.1	▲62.0	▲45.9	▲51.2	▲24.3(▲48.6)
サービス	▲35.7	▲45.4	▲30.7	▲50.0	▲33.3	▲40.0	▲24.0(▲25.9)



【平成23年5月の仕入単価についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.4(前月水準▲43.3)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大した。

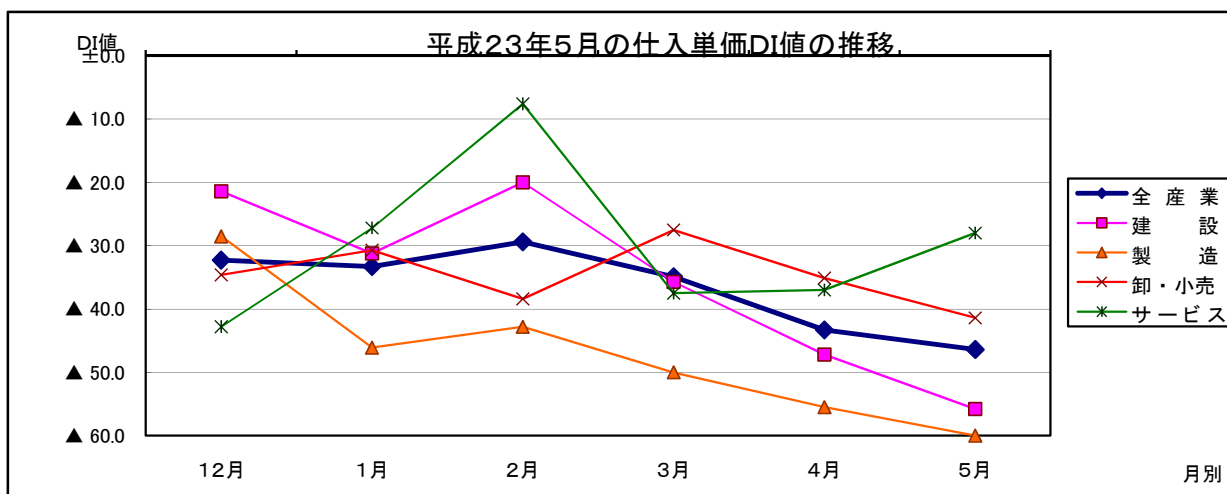
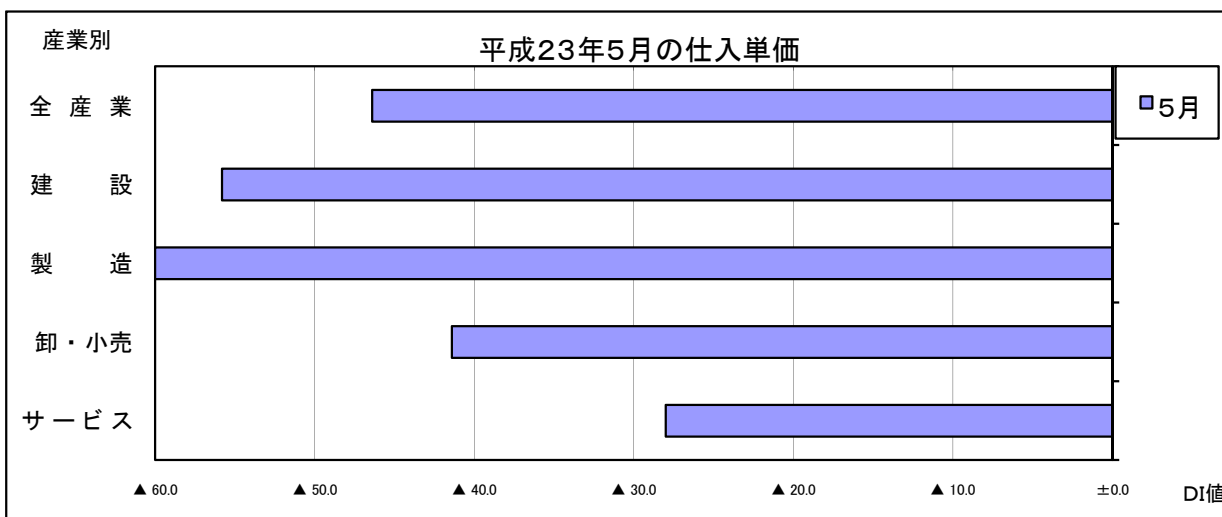
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲28.0(同▲37.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲55.8(同▲47.2)、卸小売業▲41.4(同▲35.1)、製造業▲60.0(同▲55.5)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲42.4(前月水準▲47.2)となり、プラスマイナス幅が△4.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲52.0(同▲62.9)、卸小売業▲31.7(同▲37.8)、建設業▲47.0(同▲52.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲44.0(同▲37.0)である。

平成23年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	12月	1月	平成23年 2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲32.3	▲33.3	▲29.4	▲34.9	▲43.3	▲46.4	▲42.4(▲47.2)
建設	▲21.4	▲31.2	▲20.0	▲35.7	▲47.2	▲55.8	▲47.0(▲52.7)
製造	▲28.5	▲46.1	▲42.8	▲50.0	▲55.5	▲60.0	▲52.0(▲62.9)
卸・小売	▲34.6	▲30.7	▲38.4	▲27.5	▲35.1	▲41.4	▲31.7(▲37.8)
サービス	▲42.8	▲27.2	▲7.6	▲37.5	▲37.0	▲28.0	▲44.0(▲37.0)



【平成23年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6. 4(前月水準▲7. 0)となり、マイナス幅が△0. 6ポイント縮小した。

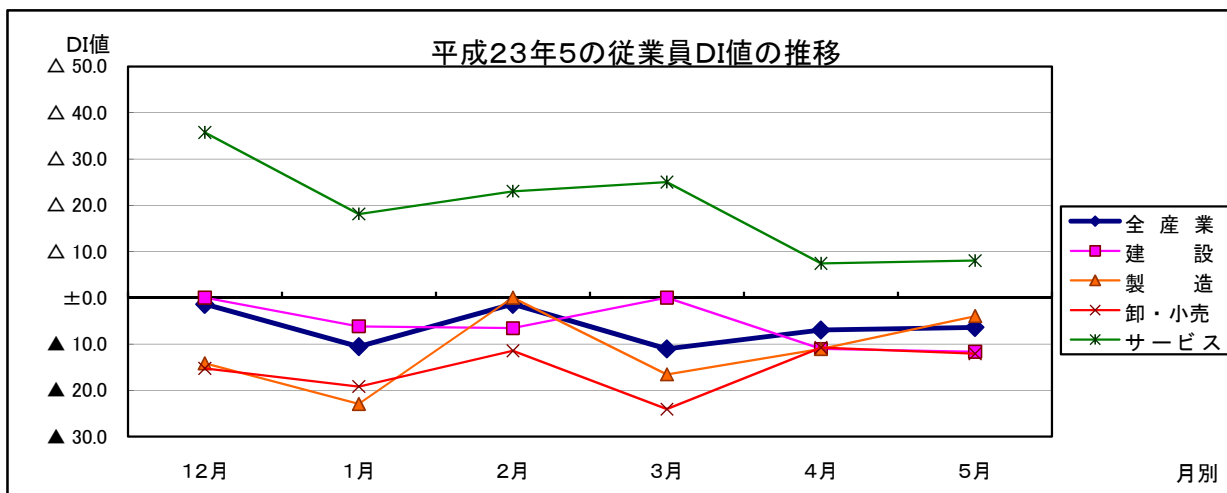
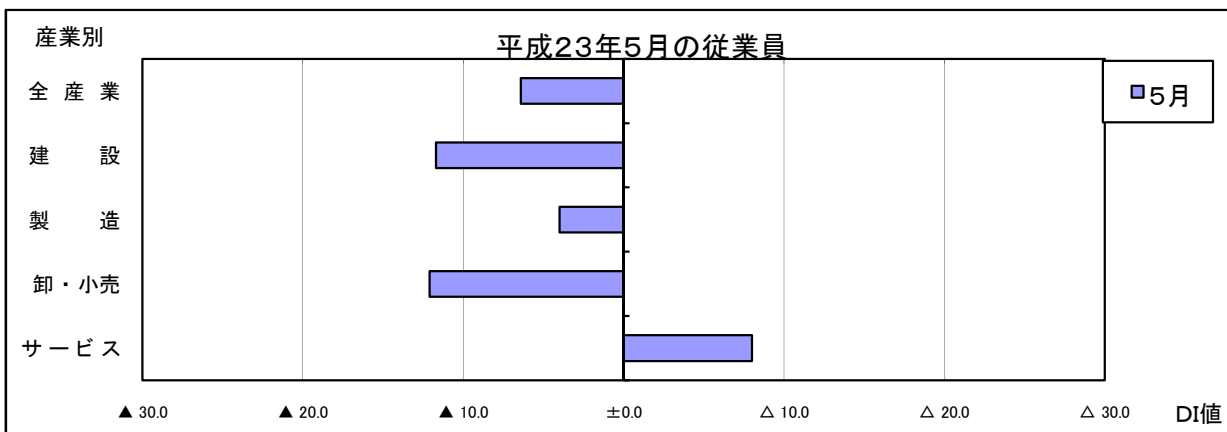
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△8. 0(同△7. 4)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲4. 0(同▲11. 1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲12. 1(同▲10. 8)、建設業▲11. 7(同▲11. 1)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2. 4(前月水準▲7. 8)となり、マイナス幅が△5. 4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△24. 0(同△3. 7)であり、プラス幅が△20. 3ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲8. 0(同▲14. 8)、建設業▲5. 8(同▲11. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲12. 1(同▲8. 1)である。

平成23年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	12月	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲1.4	▲10.6	▲1.4	▲11.1	▲7.0	▲6.4	▲2.4(▲7.8)
建設	±0.0	▲6.2	▲6.6	±0.0	▲11.1	▲11.7	▲5.8(▲11.1)
製造	▲14.2	▲23.0	±0.0	▲16.6	▲11.1	▲4.0	▲8.0(▲14.8)
卸・小売	▲15.3	▲19.2	▲11.5	▲24.1	▲10.8	▲12.1	▲12.1(▲8.1)
サービス	△35.7	△18.1	△23.0	△25.0	△7.4	△8.0	△24.0(△3.7)



【平成23年5月の資金繰りについての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲20.4)となり、マイナス幅が△4.4ポイント縮小した。

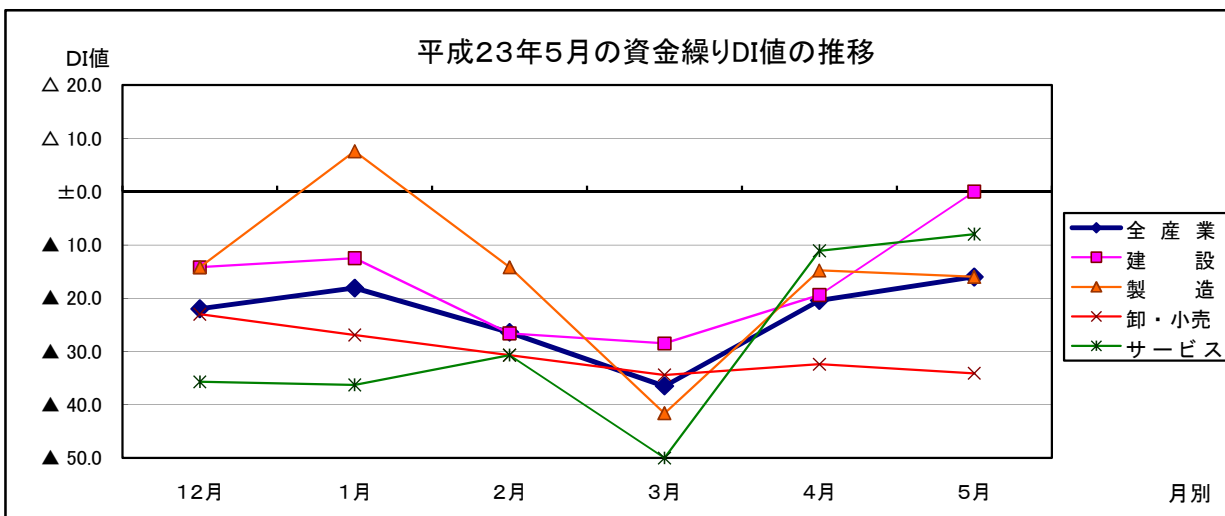
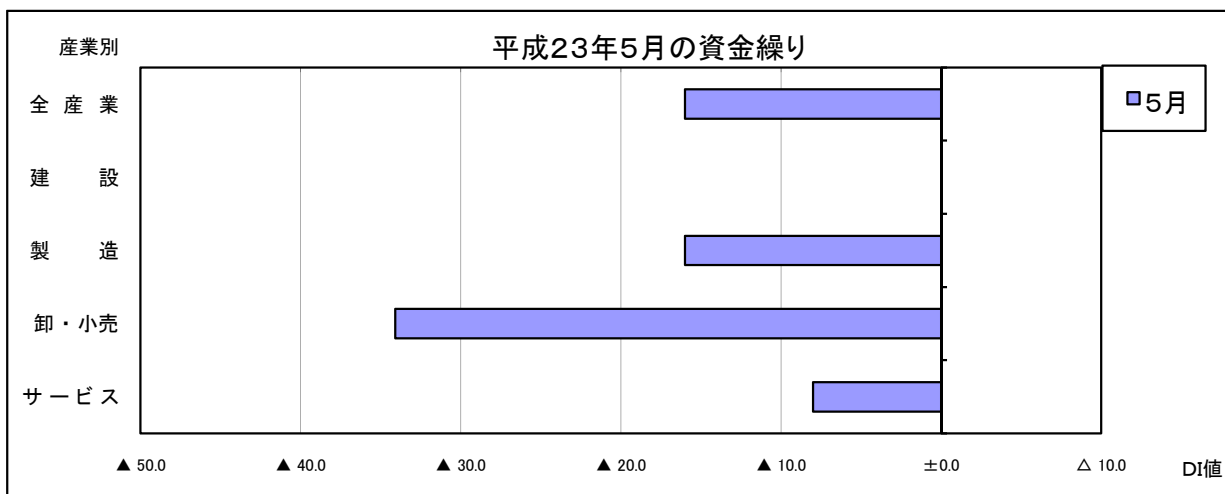
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同▲19.4)、サービス業▲8.0(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲34.1(同▲32.4)、製造業▲16.0(同▲14.8)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.8(前月水準▲28.3)となり、マイナス幅が△11.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲25.0)、サービス業▲8.0(同▲18.5)、卸小売業▲29.2(同▲35.1)、製造業▲28.0(同▲33.3)である。特に、建設業はマイナス幅が△25.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。

平成23年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	12月	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲22.0	▲18.1	▲26.4	▲36.5	▲20.4	▲16.0	▲16.8(▲28.3)
建設	▲14.2	▲12.5	▲26.6	▲28.5	▲19.4	±0.0	±0.0(▲25.0)
製造	▲14.2	△7.6	▲14.2	▲41.6	▲14.8	▲16.0	▲28.0(▲33.3)
卸・小売	▲23.0	▲26.9	▲30.7	▲34.4	▲32.4	▲34.1	▲29.2(▲35.1)
サービス	▲35.7	▲36.3	▲30.7	▲50.0	▲11.1	▲8.0	▲8.0(▲18.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.0	▲ 15.2	▲ 42.4	▲ 29.6	▲ 46.4	▲ 42.4	▲ 6.4	▲ 2.4
建設	▲ 38.2	▲ 23.5	▲ 44.1	▲ 38.2	▲ 55.8	▲ 47.0	▲ 11.7	▲ 5.8
製造	▲ 12.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 60.0	▲ 52.0	▲ 4.0	▲ 8.0
卸・小売	▲ 36.5	▲ 17.0	▲ 51.2	▲ 24.3	▲ 41.4	▲ 31.7	▲ 12.1	▲ 12.1
サービス	▲ 16.0	△ 8.0	▲ 40.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 44.0	△ 8.0	△ 24.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 37.6	▲ 28.0	▲ 16.0	▲ 16.8
建設	▲ 32.3	▲ 26.4	±0.0	±0.0
製造	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 16.0	▲ 28.0
卸・小売	▲ 48.7	▲ 36.5	▲ 34.1	▲ 29.2
サービス	▲ 36.0	▲ 12.0	▲ 8.0	▲ 8.0

【平成23年5月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	工期がずれていてなかなか着工めどが立たない	工期遅れ	管工事業
	先月と変わらず地震の影響によるのか新築がほとんどない。そのかわり余震の落ち着きからか、補修の問合せがとても多いが、受注となる確率は低く、単価も低い。よって営業が忙しいのに売上はままならない状況はもう少し続きそうです	新規受注減少 補修工事増加 受注単価低迷 売上不振	石工れんが タイルブロック工事業
	震災の影響が続き、材料の入荷遅延で行程が遅れている。徐々に回復はしているが新規の工事は少ない。心理的な不安感で先行きは不明	材料不足 工期遅れ 新規受注減少 先行き不透明	電気工事業
	新年度の工事発注待ちで5月も受注減少。6月以降に期待	受注減少	土木工事業
	経済状況の先行きが不透明なため、工事の着工が減り、受注単価も下がっている	先行き不透明 受注減少 受注単価低迷	塗装工事業
	足元の景気感、直近では、少なからず震災の影響によつての受注増が見られ、資材仕入れの工夫によっては、業績アップの見通し。しかし、中期の展望としては、資材の仕入れ単価の値上げが予測されることから、販売価格への影響による、内部的業績の予想は付けにくいと思う。今希望することは、国の政策に一貫性がなく、その場当たりの政策で、経済的予測のつかない現状を何とかしてほしいと思っている。夢と希望を与えるはずの政治が、責任追及、国とり合戦に終始時間を費やして事に、腹立たしさを感じざるを得ません。本当に被災した方々の気持ちになって真つ当な政治ができる政治家がほしいものです。	震災関連受注 資材高騰	建築工事業
	公共工事減少、公共・民間の受注単価は安い、仕入単価は上昇している	公共工事減少 仕入単価上昇	造園工事業
	現在震災の影響で戸建て、ビル、マンション等の緊急調査・補修・改修工事等が多い。夏の公共事業は学校等の補修・耐震工事が集中して出る予定だが、突貫工事で相変わらず受注単価は低く、さらに資材の高騰で、利益率は低いと思われる。秋頃までは集中して受注はあるが、資材の仕入れ状況にもよる	補修工事増加 耐震工事 受注単価低迷 資材高騰	塗装工事業
	震災の影響による住宅建設の件数減少、着工遅れ。震災の影響による今後の価格上昇の懸念。震災による工事材料の供給量、納期等への影響はほとんどない。	受注減少 工期遅れ 資材高騰	ガス業
	鉄骨の材料は不足気味ですが、なぜかメーカーの6月注文締切・8月生産引渡し分の材料価格が下がります。(国内の注文も少ないけど、風評被害で海外からの注文が少ないからかも?)不足を予測して高値で大量購入した商社の在庫価格が高値のままなので、交渉中です。	資材不足 風評被害	鉄骨鉄筋工事業
	久しぶりに設備投資(パワーショベル購入)をした	設備投資	土木工事業
	東日本大震災直後の3月よりは4・5月と一般家庭の畳表替工場の依頼が増えています。前年同月比だとまだまだ少ないです。畳小物の販売も始めたので少しずつ売上が上がるといいのですが	受注増加 新規事業	内装工事業
東日本大震災の影響で住宅設備の納品が遅れ、当面工事の着工にも遅れが出ている	納品遅れ 工期遅れ	その他の職別工事業	
小規模企業ゆえに何とか採算維持に努めておりますが、ある意味で限界にきており、これからの先行き、仕入単価の上昇が考えられ、厳しさは一層増すと考えられる	採算維持 先行き不透明 仕入単価上昇 厳しい業況	建築工事業	
得意先である製紙会社の中には主力工場が被災した所もあり大打撃を受けたが、他工場への移管や、リーマンショック以降停台したマシンの再稼働、海外向けを国内に振り向ける等の対応により、内需の必要量はカバーできる予想。但し、薬品等製紙用資材の不足、余震、電力規制等懸念材料が残るとのこと。弊社は、得意先の動向に大きく左右されるので、今後も状況注視していく。	取引先被災 資材不足 電力不足	織物業	
印刷業界においては値段が安ければよいという評価になってきているため、値崩れがひどすぎる。仕入、材料費が値上げの半分近くになってしまっている	受注値崩れ 仕入単価上昇	印刷業	

【平成23年5月の業種別業界内トピックス】

製造	先行きの見通しは、東日本大震災の影響が見づらく不透明。原油高の影響が続く、原材料が高止まりしている	先行き不透明 原油高騰 原材料高騰	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	先行きの見通しとして、受注激減、材料高騰、加えて顧客からの工賃値下げ要請があり、悪化が考えられる	受注減少 資材高騰 受注単価低迷 先行き悪化	電子部品・デバイス製造業
	鉛の2次加工メーカーの為、福島原発事故に絡む放射能を遮蔽する鉛板などの注文が大幅に増加している。夏季の節電対策をしたい	震災関連受注増加 節電対策	特殊産業用機械
	売上は順調に伸びてきたが、震災後仕入単価が上昇し、工場の修理費が重み。経営は苦しくなってきた。	売上好調 仕入単価上昇 設備補修 経営困難	紙製容器製造業
	同業者の組合で話を聞いたところ、売上高が増加している会社は皆無に近い状況でした。当社に関しましては、震災復興支援という名のイベントが少しずつ出てきて売上に繋がってきていますし、資金繰りに関しても銀行側でこの震災に対する特別融資の話もあるようですので、一時的ではありますが好転する可能性もあります	復興支援イベント 売上増加 資金繰り 特別融資	印刷業
	景況感変わらず不透明、大震災の影響で部品の供給が若干増えました。	先行き不透明 受注微増	電子部品・デバイス製造業
	震災の影響にて、材料、電気部品の入手が困難になってきています。納期遅延、キャンセル等、影響が出始めました	資材不足 受注キャンセル	金属加工機械製造業
	「東日本大震災復興緊急保障」制度について迅速な対応をお願いしたい。市の認定についても、売上減少が数字になって現れてからでは遅すぎる。概算、見込みにて認定を出してもらい売上減少する前に銀行が対応できるよう考えてほしい。すでに銀行では準備に入っているが、市役所・会議所からなら情報がないので戸惑っている。	震災復興緊急保障制度 売上減少 迅速な対応	その他の金属製品製造業
	材料費が一部下がった。東日本大震災の影響による復興の仕事はまだまだ先になると思う。震災の為、計画されていた仕事が延期になったものが多い	材料費下降 復興支援 仕事の延期	建築用・建設用金属製品製造業
	震災の影響を強く受けており、受注が大幅に減少している。取引先が被災者であるなどし、二次的な影響も出ている。これに伴い売上・利益の減少と資金繰りの悪化が懸念される	受注減少 取引先被災 売上減少 資金繰り悪化	電子応用装置製造業
東日本大震災の影響で原材料価格の高騰と入手困難が続いています	原材料高騰 資材不足	その他の機械・同部品製造業	
部品調達の難度は地震直後に比べ好転してきているが、部品単価が軒並み上がってきたのに対し、受注品の価格を上げるわけにもいかず、結果として厳しい状況である	単価上昇 価格転嫁 厳しい業況	一般産業用機械・装置製造業	
婦人服・洋品の春物は震災の影響で在庫多く値下がり。例年よりもますます早くバーゲンに突入しそう	春物商戦 在庫増加 価格下降 バーゲン	婦人・子供服小売業	
震災後3月より4月悪化、4月より5月がさらに悪化。原材料高騰予測で仕入単価上昇傾向。人件費維持に苦難。しかし5月中旬以降飲食が動き出したように思われるので、6月からは経済も消費行動が好転するのではないか。	業況悪化 原材料高騰 仕入単価上昇 人件費維持	時計・眼鏡・光学機械小売業	
原発事故の影響から野菜については福島県産だけでなく、千葉や埼玉茨城県産なども敬遠されるお客様が増えつつある。市場に出回っている物は安全とわかっていても無理して近くの産地の野菜を選ばなくとも、といわれる	原発事故の影響 風評被害	その他の各種商品小売業	
4月度売上は前年並みで推移。地震以降消費マインドの低下影響を大きく受けていましたが、4月度は回復傾向にありました。特選衣料、呉服、美術品と高額品が前年を2ケタオーバーする結果となり、食料品総菜売り場もリニューアルを向かえたので、今後のお客様動向にも期待したい	消費マインド低下 高額商品好調 リニューアル	百貨店	
政界は政争ばかりで復興に目を向けていない		書籍・文房具小売業	

【平成23年5月の業種別業界内トピックス】

卸小売	5月度、GWは前年5日連休だったことから、入店客数・売上高ともに前年を下回った。GW明けには、母の日需要が直前に集中したことに加え、4/20から開催している「GWスペシャルセール」効果もあり、8日(日)には売上高は前年を上回る推移となった。以降も夏場の節電意識の高まりから、夏物や夏季季節商材の動きが早く、売上高は前年を上回っている。月末に掛けても季節商材などの打ち出しを強化し、売上に繋げていく。	GW商戦 入店客数減少 セール効果 売上増加 節電 夏物商戦	その他の各種商品小売業
	消費者の購買意欲は少しずつ回復してきているが生活必需品しか売れていない	購買意欲回復 必需品への需要	その他の各種商品小売業
	景気の先行き不透明感から未だに飲食は停滞気味です。その分、スーパーはまあまあの数字ではないでしょうか？ただし、仕入れ数量が未だに安定していないので、チラシ(価格)に頼っているスーパーは思うような数字が上がっていないと聞いています。また、風評被害も重なって、青果物、鮮魚、牛乳などの消費に影響が出ています。夏に向けて、計画停電がないよう各企業の節電対応をしなければならず、消費にかけりが見えてきそうなのが心配です。	先行き不透明 飲食停滞 仕入不安定 風評被害 節電対策	各種食料品小売業
	震災後の売上高低迷を今月も引きずったまま夏季に向かいそうです。原材料のメーカーなどの生産工場が被災地にあり震災の被害を受け生産がストップ。その影響で材料不足や価格高騰を招いています	売上低迷 取引先被災 生産ストップ 材料不足 価格高騰	菓子・パン小売業
	パン屋だけの話では有りませんが、問屋より6月20日出荷分より、小麦粉の値上げの話がありました。大手(全国ネット)のパンも遅くとも7月ごろからは値上げがあると思います。値上げしたくなくても上げざるを得ない状況です。材料はなかなか値下げがありません。自社だけが値上げをしているのでは無いことを理解してほしい	原材料高騰 値上げ	菓子・パン小売業
	小麦粉、コーヒー、油等原材料が値上がり傾向	原材料高騰	菓子・パン小売業
	5月度、GWはかなり売上は上昇してきましたが、終わった途端に下がり始めてきました。生肉の食中毒被害があったとたん焼肉という飲食が遠ざけられた気がします。	GW商戦 売上上昇 食中毒被害の影響	農畜産物・水産物卸売業
	油関係の食材、材料の原価の値上がりが多くなっている	原材料高騰	その他の飲食料品小売業
	前月に引き続き期待される野菜の入荷が伸びず価格も相対的に安価取引の厳しい状況となっています。福島原発事故による出荷制限と放射性物質からの影響が消費者の不安材料と思われます。	野菜入荷不足 安価取引 出荷制限 放射能の影響 消費者不安	食料・飲料卸売業
	住宅エコポイントの対象期間が5カ月短縮されたのでその影響が今後どうなるか注目されます	住宅エコポイント	建築材料卸売業
	生コンクリート製造業に関しては消費マインド落ち込みにより弱含み。産業廃棄物処理業については新規に資材置き場を購入したのでかなりの増加が見込め、木くずなど火力発電の推進による需要が見込めるが生産能力一杯の為横ばい。全体的には増加傾向	消費マインド低下 設備投資 受注増加	建築材料卸売業
	同業他社への切り替えが多発し経営上きわめて悪い状況になっている。防止策として仕入先の単価見直し折衝を重ねたが難航。	同業他社への切り替え 経営悪化 単価見直し	燃料小売業
	仕入先の震災被害も少しずつ復興し生産の見通しが立ち始めた	生産見直し	一般機械器具卸売業
	融資を受け改装をした。そのこともあり売上、動員数も昨年対を維持しています。これからスタッフも増やし昨対を超えたい	店舗改装 売上維持	理容業
	全ての経営者が常に最悪の状態を想定して経営していると思います。事業を継続するために、今は足元を改めて見直すときと考えています	事業見直し	酒場・ビヤホール
6月より単価値上げの通知あり。夏場は毎年売上減少する	仕入単価上昇 売上減少	その他の飲食料品小売業	
もどに戻りつつあります。先の見直しは分からないが、皆も元気になりつつあるのではないのでしょうか	回復傾向 先行き不透明	旅館業	
外国人利用客は依然回復の兆しはなく、GWにおいても観光目的での宿泊利用は昨年に比べ激減している。一方で遠出を控える傾向の為にレストラン利用はランチを中心に復調へ向かった。近隣の法人企業からの問い合わせも増えつつあるものの、電力事情が不透明なため受注の足かせとなっている	外国人客減少 宿泊激減 飲食復調 電力不足	ホテル	

【平成23年5月の業種別業界内トピックス】

サービス	近隣に大手スーパーオープンの影響で販売競争激化。売上増も利益減少。中旬に暖かい日が続き衣替え商品好調に推移したが、台風と寒さで中断。天候の回復に期待。	販売競争激化 利益減少 衣替え 気候の影響	その他の飲食料品小売業
	震災の翌日から予約キャンセルの電話が相次ぎ、既に仕入れた品物の支払い、収入は格段の減少のため、資金繰りにあくせくしている。	キャンセル 仕入資金 資金繰り困難	その他の一般飲食店
	原発事故の電力不足で、節電による経済の落ち込み等心配の種であり、今年の夏の気温如何では売上の鈍化が懸念材料となる	電力不足 経済落ち込み 気候の影響	食堂・レストラン
	先月に比べれば景況が戻りつつあるのを感じる。5、6月の戻り具合が重要であると注視している	回復傾向	旅行業
	業況は今のところ見通しがつかないです	先行き不透明	不動産代理業・仲介業
	全般にお客様の反響数が減少しています。購入意欲が減ってきているようです。また、地震放射能に対して神経質になっています。	客数減少 消費マインド低下 放射能の影響	不動産管理業
	大震災の影響がビルのテナントに影響が始めています。その結果貸しビル業では値下げもしなくてはいけない状況も出てきています。社会全てがつながっているので手を取り合って協力する時だと思います。	テナント値下げ検討	不動産賃貸業
	土地建物の賃貸が主であるため、変動に大きな差は見られません。商業用テナントも弊社では問題ありませんが近隣ではテナント募集が前より目立つような気がします	空き店舗増加	不動産賃貸・管理業
	震災の影響はあるが震災がらみの仕事も増えた	震災関連受注増加	ソフトウェア業
	サービス業は震災以降最悪な状態です。顧客先の年度内予算を復旧工事にまわされ、予定受注を延期されている。	厳しい業況 受注延期	ソフトウェア業
工場の被災により医薬品の不足、医療器具の不足が続いています	医療品不足	獣医業	

◎資材・原材料高騰

- ・ 少なからず震災の影響によつての受注増が見られ、資材仕入れの工夫によつては、業績アップの見通し。しかし、中期の展望としては、資材の仕入れ単価の値上げが予測されることから、販売価格への影響による、内部的業績の予想は付けにくいと思う。 建築工事業
- ・ 夏の公共事業は学校等の補修・耐震工事が集中して出る予定だが、突貫工事で相変わらず受注単価は低く、さらに資材の高騰で、利益率は低いと思われる。秋頃までは集中して受注はあるが、資材の仕入れ状況にもよる 塗装工事業
- ・ 東日本大震災の影響で原材料価格の高騰と入手困難が続いています その他の機械・同部品製造業
- ・ 震災後3月より4月悪化、4月より5月がさらに悪化。原材料高騰予測で仕入単価上昇傾向。人件費維持に苦難。しかし5月中旬以降飲食が動き出したように思われるので、6月からは経済も消費行動が好転するのではないか。 時計・眼鏡・光学機械小売業
- ・ 震災後の売上高低迷を今月も引きずったまま夏季に向かいそうです。原材料のメーカーなどの生産工場が被災地にあり震災の被害を受け生産がストップ。その影響で材料不足や価格高騰を招いています 菓子・パン小売業
- ・ パン屋だけの話では有りませんが、問屋より小麦粉の値上げの話がありました。大手のパンも遅くとも7月ごろからは値上げがあると思います。値上げしたくなくても上げざるを得ない状況です。材料はなかなか値下げがありません 菓子・パン小売業
- ・ 小麦粉、コーヒー、油等原材料が値上がり傾向 菓子・パン小売業
- ・ 油関係の食材、材料の原価の値上がりが多くなっている その他の飲食料点小売業

◎受注減少

- ・ 先月と変わらず地震の影響によるのか新築がほとんどない。そのかわり余震の落ち着きからか、補修の問合せがとて多いが、受注となる確率は低く、単価も低い。よつて営業が忙しいのに売上はままならない状況はもう少し 石工れんがタイルブロック工事業
- ・ 新年度の工事発注待ちで5月も受注減少。6月以降に期待 土木工事業
- ・ 公共工事減少、公共・民間の受注単価は安い、仕入単価は上昇している 造園工事業
- ・ 先行きの見通しとして、受注激減、材料高騰、加えて顧客からの工賃値下げ要請があり、悪化が考えられる 電子部品・デバイス製造業
- ・ 震災の影響を強く受けており、受注が大幅に減少している。取引先が被災者であるなどし、二次的な影響も出ている。これに伴い売上・利益の減少と資金繰りの悪化が懸念される 電子応用装置製造業
- ・ サービス業は震災以降最悪な状態です。顧客先の年度内予算を復旧工事にまわされ、予定受注を延期されている。 ソフトウェア業

◎先行き不透明

- ・ 震災の影響が続き、材料の入荷遅延で行程が遅れている。徐々に回復はしているが新規の工事は少ない。心理的な不安感で先行きは不明 電気工事業
- ・ 先行きの見通しは、東日本大震災の影響が見づらく不透明。原油高の影響が続き、原材料が高止まりしている ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム
- ・ 景況感はず変わらず不透明、大震災の影響で部品の供給が若干増えました。 電子部品・デバイス製造業
- ・ 景気の先行き不透明感から未だに飲食は停滞気味です。その分、スーパーはまあまあの数字ではないでしょうか。ただし、仕入れ数量が未だに安定していないので、チラシ(価格)に頼っているスーパーは思うような数字が上がっていないと聞いています。また、風評被害も重なって、青果物、鮮魚、牛乳などの消費に影響が出ています。夏に向けて、計画停電がないよう各企業の節電対応をしなければならず、消費にかげりが見えてきそうなのが心配 各種食料品小売業
- ・ 業況は今のところ見通しがつかないです 不動産代理業・仲介業











平成23年5月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.6に対し、「CCI-LOBO」が▲54.4で、柏の方がマイナス幅が16.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、建設業・製造業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.0に対し、「CCI-LOBO」が▲47.2で、柏の方がマイナス幅が19.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が全て業種で良く、製造業・卸小売業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.4に対し、「CCI-LOBO」が▲48.3で、柏のほうがマイナス幅が5.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.4に対し、「CCI-LOBO」が▲35.8で、柏の方がマイナス幅が10.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.4に対し、「CCI-LOBO」が▲12.1で、柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.0に対し、「CCI-LOBO」が▲31.5で、柏の方がマイナス幅が15.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。






平成23年5月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI







業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 37.6	 32.3	 28.0	 48.7	 36.0
CCI LOBO	 54.4	 56.1	 48.6	 54.8	 57.2


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.0	 38.2	 12.0	 36.5	 16.0
CCI LOBO	 47.2	 44.9	 38.6	 48.5	 53.5


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 42.4	 44.1	 28.0	 51.2	 40.0
CCI LOBO	 48.3	 50.7	 43.4	 46.0	 55.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 46.4	 55.8	 60.0	 41.4	 28.0
CCI LOBO	 35.8	 57.0	 40.2	 27.7	 31.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 6.4	 11.7	 4.0	 12.1	 8.0
CCI LOBO	 12.1	 19.8	 14.5	 3.8	 12.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.0	 ±0.0	 16.0	 34.1	 8.0
CCI LOBO	 31.5	 33.7	 30.0	 31.1	 37.0

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成23年5月18日～24日

調査対象：全国の409商工会議所が2703業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、東日本大震災の影響が大きく、低水準で推移

5月の全産業合計の業況DIは、54.4(前月比+3.3ポイント)と、5カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。しかし、東日本大震災の影響で、過去最大の悪化幅(11.8ポイント)を記録した4月からの改善は小幅にとどまり、低水準で推移している。

先行きについては、先行き見通しDIは47.4と、今月から+7.0ポイント改善する見通し。部材の調達難の解消に伴う生産回復や、夏物商品の売上増加への期待が出ている。しかし、原発問題の長期化に伴い、夏場の節電による生産活動の縮小や消費意欲の低迷への不安を訴える声も多い。また、サプライチェーン(供給体制)の寸断を契機とした、親企業の海外移転加速も懸念される。

【建設業】「復興需要により売上は増加しつつあるものの、供給不足による資材価格の上昇や今後の人手不足を懸念」(建築工事業)、「公共

事業が被災地に集中し、他地域における工事予算が削減されることを懸念(一般事業)、「住宅エコポイント制度の対象となる新築、リフォームの着工期限が7月末と5カ月前倒しされることから、今後駆け込み需要が増える見通し」(建築工事業)

【製造業】「放射能問題の影響で、出荷製品の検査証明を求められ、多額の費用が発生。また、一部の得意先から取引を停止された」(食料品製造業)、「取引先が組立ラインを稼働できず、納入量を調整せざるを得なくなったため、売上が減少。6月以降は回復が見込まれる」(輸送用機械器具製造業)、「円高により、大手チェーンストアが海外製品の直輸入を増やしたため、売上が減少」(家具製造業)

【卸売業】「新茶販売のシーズンであるが、関東地方における茶葉の放射能汚染により、売上が減少したため、経営が非常に厳しい」(食料・飲料卸売業)、「取引先が工場を操業停止しているため、製品を出荷できない。今後モ回復の見通しが立っていない」(自動車部品卸売業)、「

「人件費の上昇に伴い、中国製品の価格が上昇している。販売価格に転嫁したいが、売上への影響が懸念されるためできない」(自転車卸売業)

【小売業】「浜岡原発の停止に伴う節電対応により、休日や営業時間の変更等が考えられ、来客数に影響が及ぶ見通し」(総合スーパー)、「節電対応に伴い、クールビズ需要が例年以上に増加」(百貨店)、「外国人観光客数が落ち込んでいる。この状況が1～2年続くと思われる」(商店街)

【サービス業】「製造業の生産が低迷していることから、輸送需要が前年比3～4割も減少」(運送業)、「自粛ムードが一段落し、売上が昨年並みに回復」(食堂、レストラン)、「原発事故の風評被害により、外国人ビジネス客および観光客の宿泊が激減」(旅館)

5月のキーワード

5月分はキーワード集計及びコメント掲載がございません

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲38.1	▲50.7	▲27.1	▲26.3	▲39.1	▲45.0
1月	▲38.7	▲48.7	▲26.8	▲36.4	▲37.4	▲46.8
2月	▲40.1	▲50.9	▲29.8	▲33.8	▲38.7	▲48.0
3月	▲45.9	▲59.5	▲35.7	▲37.1	▲46.0	▲51.5
4月	▲57.7	▲60.3	▲50.2	▲51.9	▲58.1	▲66.4
5月	▲54.4	▲56.1	▲48.6	▲59.1	▲54.8	▲57.2
見通し	▲47.4	▲52.3	▲42.9	▲48.5	▲44.3	▲52.2

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI